保証とアフターサービス（よくお読みください）

保証書について

この商品には保証書を別途添付しております。
保証書は販売店でお渡しいたしますから所定の事項の記入及び記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間はお買い上げ日より1年間です。(一般家庭用以外に使用された場合は除きます)
ただし、バイオチップ･脱臭バイオボールは消耗品ですから保証期間内でも有料とさせていただきます。

補修用性能部品の保有期間

当社はこの生ごみイーターの補修用性能部品を製造打切後5年間保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

サービスをご依頼される前に､この取扱説明書の23～25ページに従ってご確認いただき、なお異常がある場合は、ご使用を中止し必ず電源プラグを抜き、バイオチップ・脱臭バイオボールを取り除いてからお買い上げの販売店にご依頼ください。

- **保証期間中は**
  お買い上げの販売店まで、品名、品番、お買い上げ日、故障の状況（できるだけ具体的に)、ご住所、お名前、電話番号、修理ご希望日をご連絡ください。保証の規定に従って販売店が修理させていただきます。
- **保証期間が過ぎているときは**
  お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は､ご希望により有料修理させていただきます。

松下電工お客様ご相談窓口のご案内

修理・お手入れ・お取扱い・工事などのご相談は、まずお買い求めの販売店・工事店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、下記窓口へ

修理・部品などのご相談は「修理ご相談センター」

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-081-365（ハイ 365日）
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。
【受付時間:月～金9:00～19:00 土･日･祝9:00～17:00】

ただし、携帯電話・PHS等は下記の電話番号へおかけください。

○札幌修理ご相談センター　☎011-707-7210
〒060-0807　札幌市北区北7条西5丁目5番地3
札幌千代田ビル2階
北海道松下電工テクノサービス（株）

○東京修理ご相談センター　☎03-5392-7190
〒174-0041　東京都板橋区舟渡1丁目12番11号
ヘリオスII2階
東部松下電工テクノサービス（株）

○名古屋修理ご相談センター　☎052-551-7900
〒450-8611　名古屋市中村区名駅南2丁目7番55号
松下電工名古屋ビル北館8階
中部松下電工テクノサービス（株）

○大阪修理ご相談センター　☎072-878-8999
〒575-0041　大阪府四条畷市蔀屋新町3番41号
近畿松下電工テクノサービス（株）

○福岡修理ご相談センター　☎092-622-0531
〒812-0041　福岡市博多区吉塚5丁目5番32号
西部松下電工テクノサービス（株）

商品・お取扱いなどのご相談は「お客様ご相談センター」

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-081-713（ハイ ナイス）
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。
【受付時間:月～金9:00～19:00 土･日･祝9:00～17:00】

ただし、携帯電話・PHS等は下記の電話番号へおかけください。

○東日本お客様ご相談センター
☎　03-3769-4820
FAX　03-3769-4984
〒108-8402　東京都港区芝4丁目8番2号

○西日本お客様ご相談センター
☎　06-6946-2437
FAX　06-6941-4057
〒540-0001　大阪市中央区城見2丁目1番3号

ご注意　所在地、電話番号、受付時間などが変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。　0204

松下電工株式会社　リビング･ライフ事業部
〒522-8520 滋賀県彦根市岡町33番地

S.No2

National
松下電工

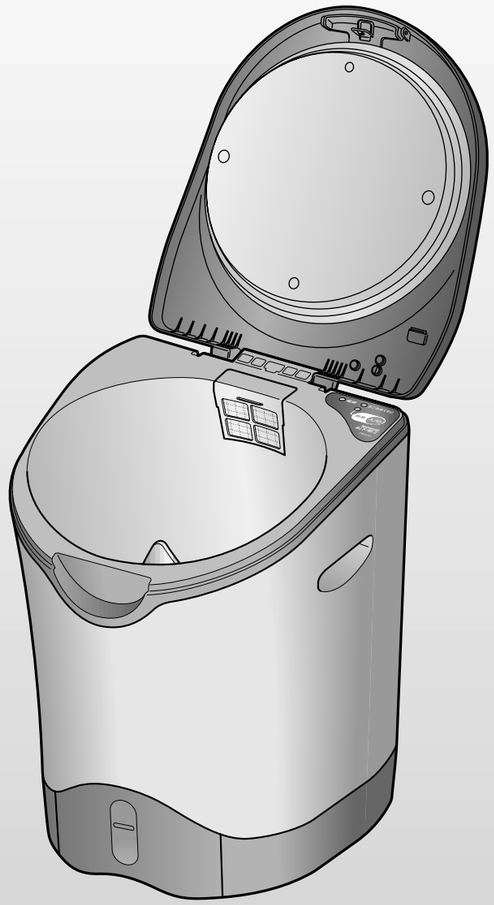
保証書別添
保管用

一般家庭用･屋外設置型

生ごみイーター

TK410

取扱説明書



お買い上げありがとうございました。
よくお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。
●保証書と共に大切に保管してください。
●「生ごみイーターの上手な使い方」がご覧いただけます
http://dmedia.mew.co.jp/wellness/namagomi/

安全上のご注意　1～2
各部のなまえ　3～4
設置のしかた　5～6
ご使用前の準備 投入できるもの･できないもの　7～8
生ごみの上手な投入のしかた 使いはじめのご注意　9～10
日常の使いかた こんなときは?　11～12
表示パネルのランプが点灯･点滅したら　13～14
においが気になるときはコンポスト（処理物）がたまったら　15～16
コンポスト（処理物）の処置方法　17～18
性能維持のために（脱臭バイオボール）の追加方法　19～20
お手入れのしかた　21～22
故障かな?と思ったとき 定格･仕様　23～26
保証とアフターサービス　裏表紙

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」「注意」に区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので必ず守ってください。

⚠警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容
⚠注意	人が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定される内容

絵表示の例

⃠ 記号は、**禁止**の行為を示しています。
左図の場合は分解禁止が描かれています。

❗ 記号は、行為を**強制**したり**指示**したりするものです。

※お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

電源コードについて

⚠警告

必ず守る	●**コンセント部にホコリがついた場合は、電源プラグを抜いて乾いた布でふきとる** 湿気等で絶縁不良となり、火災の原因となります。
	●**電源プラグは根元まで確実に差し込む** 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
	●**防水コンセントを使用する** 守らないと感電や漏電火災の原因となります。
	●**必ず交流100Vで使用する** 定格を超えると、発熱による火災の原因となります。
禁止	●**傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しない** 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
	●**コードを途中で接続したり、専用品以外の延長コードを使用したりしない** 感電や発熱による火災の原因となります。
	●**電源コードを破損するようなことはしない(傷つけ、加工、無理な曲げ、引っ張り、ねじり、重いものを載せる、挟み込むなど)** 感電・ショート・発火の原因となります。
	●**たこ足配線をしない** 発熱による火災の原因となります。
ぬれ手禁止	●**ぬれた手で、電源プラグに触れない** 感電のおそれがあります。

取り付けについて

必ず守る	●**直接雨ざらしになる場所や雨水がたまり水浸しになる場所で使用しない** 感電や漏電火災の原因となります。
禁止	●**ベランダの手すり側に置かない** お子様が本体に乗り転落事故の原因となります。

取り扱いについて

⚠警告

禁止	●**本体および処理槽内を水洗いしない** 感電や漏電火災の原因となります。
	●**本体や処理槽には、灯油・ガソリン・LPガス・シンナー・アルコールなどやそれらが付着したごみを絶対に入れたり近づけたりしない** **また、可燃性の殺虫剤・消臭剤などをスプレーしない** 爆発や火災の原因となります。
	●**本体の上に乗ったり、腰かけたり、重いものを載せたりしない** 変形・破損・転倒によりケガをするおそれがあります。
	●**幼児にさわらせない** ケガをすることがあります。
	●**ふたを開けて、本体の上に磁気のあるものを近づけない** 誤動作を起こし、ケガの原因となります。
分解禁止	●**本機の分解・改造は絶対に行わない** 火災・感電のおそれがあります 修理はお買い上げの販売店またはお近くの松下電工お客様ご相談窓口にご相談ください。

バイオチップ等について

必ず守る	●**バイオチップ・脱臭バイオボール・コンポスト（処理物）を目や口に入れたり、素手でさわったりしない** **これらのものに触れた時は必ず手を洗う** 生ごみを投入後のバイオチップ・脱臭バイオボール及びコンポストは土や堆肥と同じです。 衛生上好ましくありません。
接触禁止	●**通電中および電源プラグを抜いてから1時間以内はバイオチップや処理槽の内部に顔や手などを入れない** 熱をもっているため火傷やケガをするおそれがあります。

電源コードについて

⚠注意

必ず守る	●**コンセントから電源プラグを抜く場合は必ず電源プラグを持って抜く** コードを引っ張ると破損し、感電・ショート・発火の原因となります。

取り付けについて

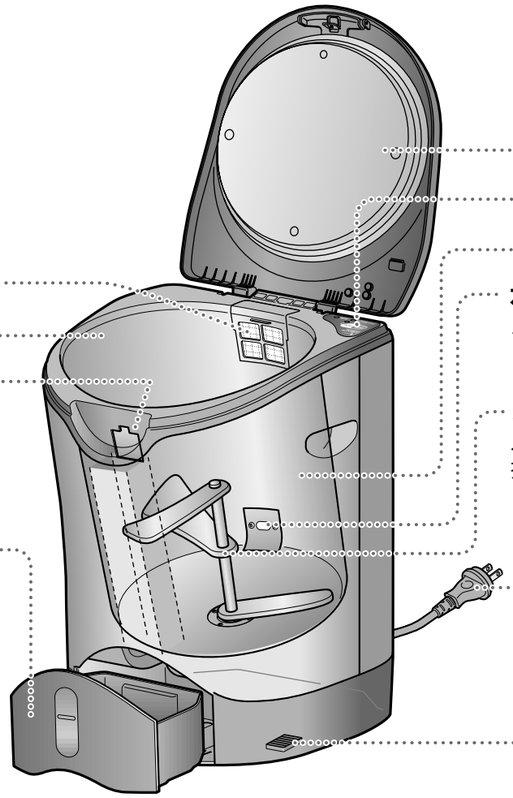
必ず守る	●**ブロックまたは専用架台の上に設置する**（☞ 6ページ） 直置きすると冠水による感電や排気ができず、故障や過熱の原因となります。
禁止	●**本体を傾いた状態で設置しない**（☞ 6ページ） 本体が転倒し、事故のおそれがあります。
火気禁止	●**火気の近くに設置しない** **また可燃性のものや火のついたたばこなどを投入しない** 本体の変形によるショート・発火の原因となります。

安全上のご注意

各部のなまえ

本　体

ふたを開けた状態



ふた

操作パネル

処理槽

フィルター(吸込口)

投入口

オーバーフロー窓(内面)

水分センサー
バイオチップの水分・温度を検知します

ミキシングフィン(撹拌羽根)
ふたを開けると安全のため、撹拌が自動的に止まります

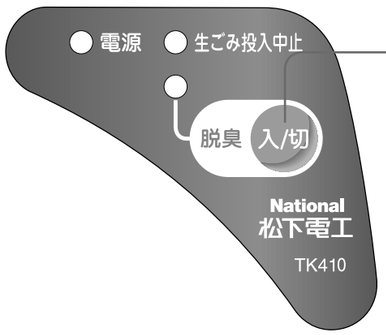
トレー
処理槽内の余分なコンポスト(処理物)がオーバーフロー窓からあふれ落ち、トレーにたまります
※生ごみを分解処理後トレーにたまる処理物などをコンポストと呼びます

電源プラグ

排気口(底面)

操作パネル(本体内)

操作はふたを開けて行います



脱臭ボタン

- 脱臭運転を入/切するときに使用します(☞15ページ)

同梱品

(処理槽内部に入れてあります。電源を入れる前に必ず取り出してください)

バイオチップ(1袋)(約10L)

オガクズに似た多孔質の木片で特殊加工したもの。微生物を活発化する為に必要です

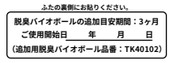
脱臭バイオボール(1袋)(約800g)

生分解性のセルロース粒子と土壌改良材として幅広く使われているゼオライトです
良好な分解状態を維持し、においを低減します

上手な使い方シート(1部)

上手に使っていただくためのマニュアルです
付属のpH試験紙(黄色)を用いてバイオチップのpHを測定します
(☞15ページ)

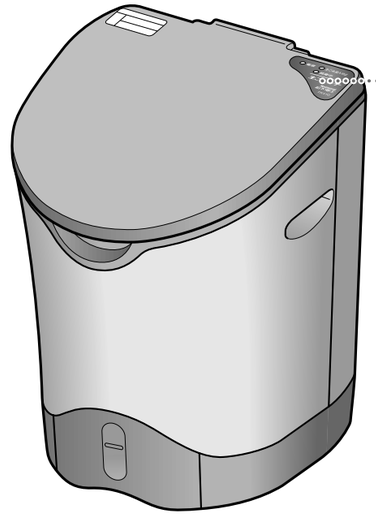
追加目安シール(1枚)



脱臭バイオボールの追加時期の目安として使用します
(☞20ページ)

本　体

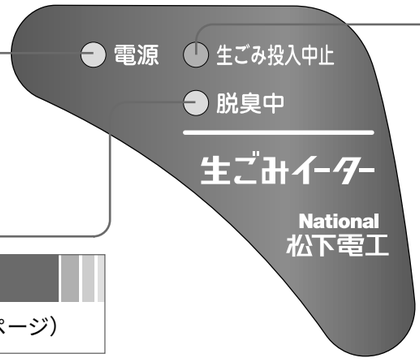
ふたを閉めた状態



表示パネル

表示パネル(ふた面)

ふたを閉じた状態で運転状況が確認できます



電源ランプ(緑)

電源プラグをコンセントに差し込むと、通電状態となり、電源ランプが点灯します

生ごみ投入中止ランプ(赤)

生ごみを投入してはいけないときに点灯します(☞13ページ)

脱臭中ランプ(緑)

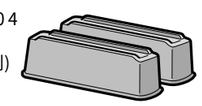
脱臭運転時に点灯します(☞15ページ)

別売品

お買い求めの販売店または、お近くのナショナル製品取扱店にてお求めください

設置するとき

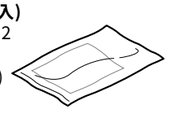
専用架台
品番:TK40104
希望小売価格
2,000円(税別)



TK402専用延長コード(5m)
品番:TK40201
希望小売価格
2,000円(税別)

においが気になるとき

pH安定剤(2袋入)
品番:TK40002
希望小売価格
1,000円(税別)



(☞15ページ)

バイオチップ分解促進剤(2袋入)
品番:EH43102L
希望小売価格
1,000円(税別)

(☞15ページ)

追加・交換するとき

入れ替え用バイオチップ(約10L×1袋)
品番:EH43103L
希望小売価格
1,200円(税別)

脱臭バイオボール(約800g×2袋)
品番:TK40102
希望小売価格
1,600円(税別)

設置のしかた

電源を入れる前にバイオチップ・脱臭バイオボールを処理槽内から必ず取り出してください

設置場所の条件

風通しの良い屋外に設置してください

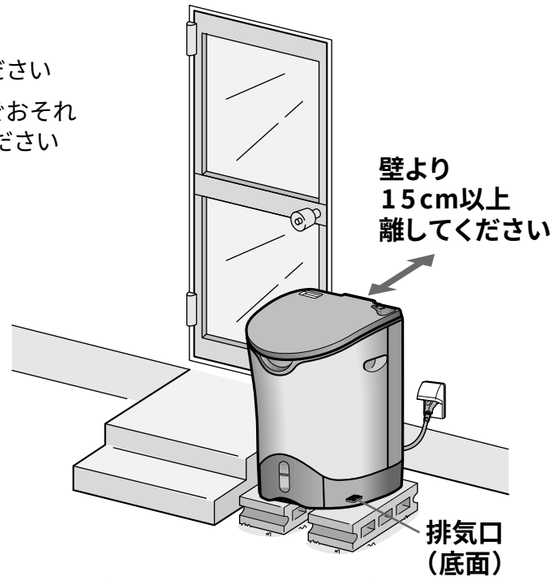
- 室内やお隣りへ、においが流れない場所を選んでください
- 窓のすぐ近くや換気扇の吸込口の近くに設置すると、風向きにより、においが室内に入ってきますので窓から離してください
- 室内・ガレージ・物置などへの設置は、においがこもりますので避けてください
- 雨がかかりにくい場所に設置してください(ベランダ・軒下など)

※直接雨ざらしになる場所に設置すると、機能的に問題はありませんが外観を損ねる場合があります

戸建住宅の場合

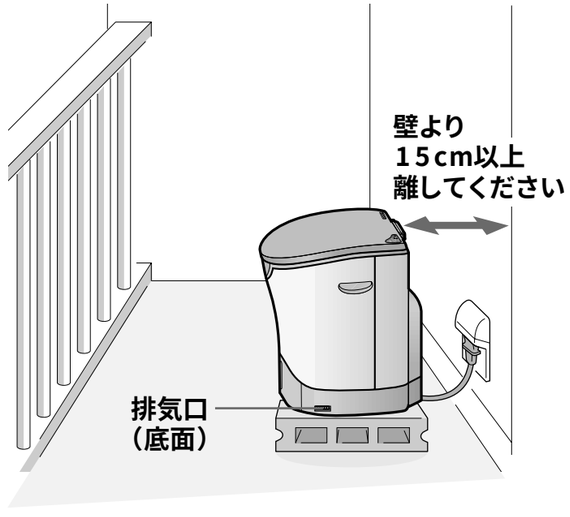
雨水がたまり水浸しにならない場所に設置してください

※排気口の下に草などある場合は、排気口をふさぐおそれがあるため草が生えない処理をして設置してください



マンション（ベランダ）の場合

避難経路や消防隊進入の障害にならない場所に設置してください



⚠警告

- **ベランダの手すり側には設置しない**
  お子様が本体に乗り転落事故の原因となります

設置のしかた

直置きしないで必ず専用架台(☞4ページ)または市販のブロックを敷いてください

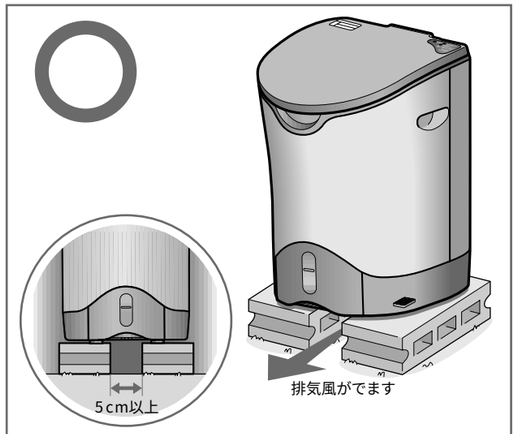
- 積雪・たまった雨水・草などで排気口(底面)がふさがると、排気できずに故障や過熱の原因になります

本体は水平になるように設置してください

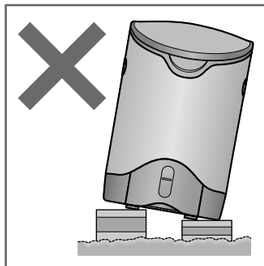
- 傾いた状態ですと転倒し、事故のおそれがあります

壁から15cm以上離し、排気口(底面)付近に物を置かないでください
強風の時は、ふたが開かないようにガムテープなどで止めてください

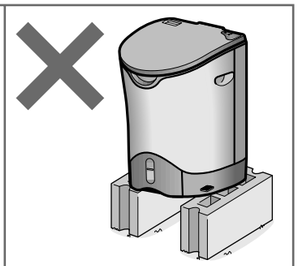
正しいブロックの置き方



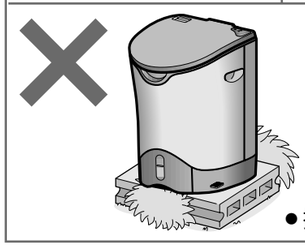
- 本体が水平になるように設置する
- ブロックは横置きにし、すきまをあける



●水平になっていない



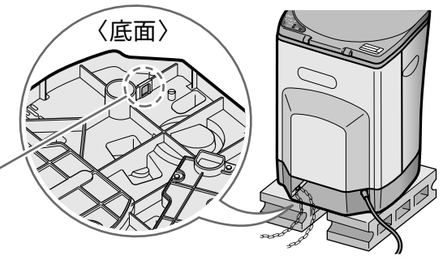
●縦置き



●排気口がふさがっている

盗難防止のために

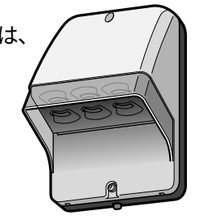
- **盗難防止が必要な場合は市販のチェーンなどをお買い求めの上、穴に通して利用ください**



必ず防水コンセントを使用してください

松下電工　品番　WK2113K
　　WK2111K

- 防水コンセントがない場合は、販売店にご相談ください
  防水コンセント代、工事費などは別途必要です



※注意

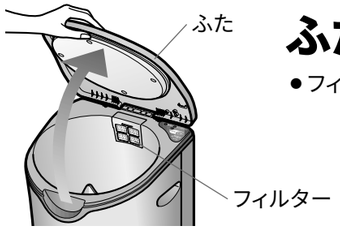
- 三口プラグ式の場合に電源コードプラグを3個取りつける場合は、別売のTK402専用延長コードをご使用ください(☞4ページ)
- 本商品のプラグは防水型ゴムキャップを使用しておりますので、防水コンセントによっては差し込みできる位置が限定されています。あらかじめご確認の上、ご使用ください

例

ご使用前の準備

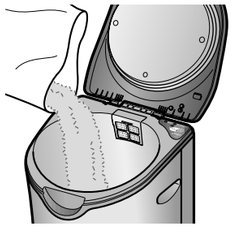
生ごみを投入する前にバイオチップ･脱臭バイオボールを投入してください

1 ふたを開ける



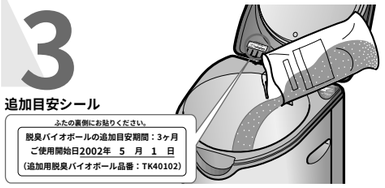
- フィルターが入っているかを確認する

2 同梱のバイオチップを半分程度入れる



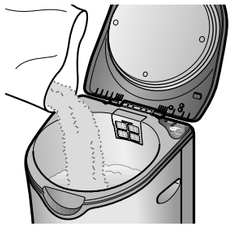
- 脱臭バイオボールの混ざりをよくするため、先にバイオチップを半分程度入れてください

3 脱臭バイオボールを入れる



- 処理槽内に全量(1袋)入れる
- 脱臭バイオボールの投入日を付属の追加目安シールに記入し、ふたの裏面に貼る(☞20ページ)

4 残りのバイオチップを入れる

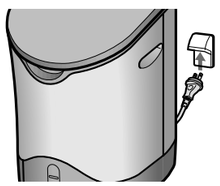


- 処理槽内に全量(1袋)入れる

5 ふたを閉める

- カチッと音がするまで確実に閉める

6 電源プラグを差し込む



- 電源が入り、電源ランプが点灯します(内部のファンが運転を開始します)
- バイオチップ、脱臭バイオボールが新しい間(1週間程度)はコスレ音(撹拌時にキューという音)がしますが、異常ではありません

以上で準備が終わりました。使いはじめのご注意をお読みの上、生ごみを投入してください

投入できるもの・できないもの

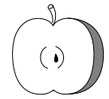
○ 投入できるもの

分解しやすいもの

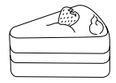
肉

魚

野菜


果物

穀物･茶かす


お菓子類

てんぷら･揚げ物

コーヒーかす

分解に時間がかかるもの･完全に分解できないもの

魚･鶏の骨･カニ、エビのカラ

卵のカラ

ミカンの皮

バナナの皮

豆類の皮

分解に時間がかかったり、繊維質などが残ることがありますので、時々取り除いてください(☞12ページ)

その他、一般的に人が食べられるもの

においが気になる時はP15を参照してください

- においの強いもの、一度に多量の魚やイ力のアラなどを入れないでください(においがすることがあります。アラは1日300g以下が目安です)

× 投入できないもの

内部にたまって故障の原因になります

牛･豚の大きな骨

プラスチック類･ゴム類･ポリ袋(ごみ袋など)

とうもろこしの皮･芯
玉ねぎの薄皮

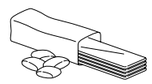
金属類･ガラス･陶器(ビールの栓など)

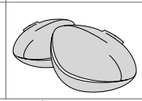
花･落葉･草･芝生

ティーバック･紙類･繊維類･食品の乾燥剤

割りばし･つまようじ･竹串

種


ガム


貝殻類

微生物(バイオ分解菌)が死滅してしまう原因になります

たばこの吸い殻･灰

薬･抗生物質類

大量の塩や塩分の多いもの(みそ、しょうゆ)

たけのこの皮･栗の皮

化学製品･医薬品

犬のふん

洗剤･漂白剤
石けん･歯磨き

高温の生ごみ

化粧品･整髪料

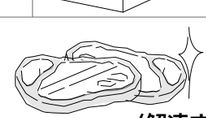
シャンプー･リンス

米ぬか

腐敗した生ごみ

内部がべたつき、においの原因になります

大量の油･牛乳･酒･酢などの液体

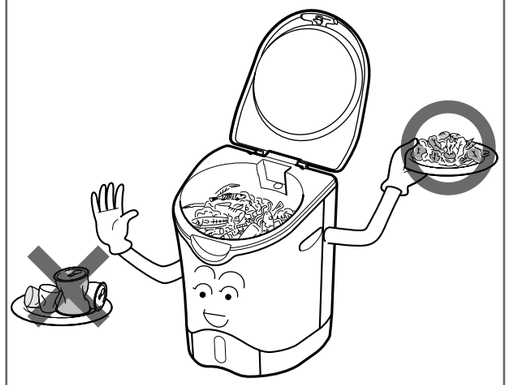

凍った食品
(解凍すれば投入できます)

その他、人が食べられないもの

誤って多量の生ごみを投入した場合はバイオチップ･脱臭バイオボールの交換が必要になる場合があります

生ごみの上手な投入のしかた

分別して入れる

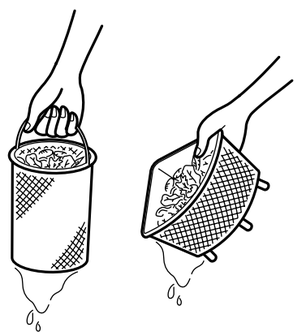


- 投入できるものと、投入してはいけないものがありますので、あらかじめ必ず分別してください
（☞8ページ）
- ポリ袋や紙の水切り袋のまま入れないでください
（ミキシングフィンにからまり、故障の原因となります）

硬くて大きいものや長いものは小さくする

- かぼちゃなど大きくて硬いものや、果物の皮・長ねぎの白根など丈夫な繊維質の長いものは小さく5cm程度に切ってから入れてください
（ミキシングフィンにからまり、回転を妨げ撹拌異常の原因になります）
- おにぎりのようなだんご状のものは、分解しやすくするためにほぐして入れてください
（においの原因になります）
- 生ごみを小さくして投入することにより、分解状態を良好に保ち、においの発生を抑える効果があります

水切りを行う



- 生ごみを投入するときは、なるべく水がたれない程度に水切りをしてください
（水切りが不十分ですとバイオチップがべたつき、においの原因になります）
- スイカなどの水分の多い生ごみを投入しますと、バイオチップがべたつき処理が遅くなり、においの原因となります
（※直径25cm位のスイカで約4kgのごみがでます）

入れすぎない（通常は 1.0kgまで　1日最大 1.5kgまで）

- 1日に投入できる生ごみの量は、最大1.5kgまでです
但し、最大量での投入は7日に一度にしてください
- 生ごみの量が多い場合は、2～3回に分けて投入することをおすすめします
- 生ごみを入れ過ぎるとバイオチップがべたつき処理が遅くなり、においの原因となります
- でんぷん質（ごはん・うどん）ばかりを続けて投入しないでください
においの原因になります

使いはじめのご注意

使いはじめに必ず守っていただきたいこと

使いはじめの期間(夏期：5～7日間、冬期：7～10日間)は以下のことを必ず守ってください

お願い

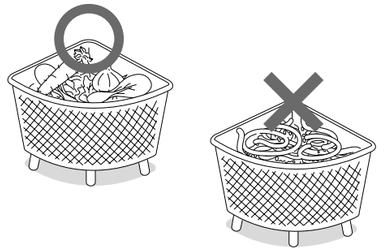
最初、バイオチップ、脱臭バイオボールには微生物は存在しません。本機は投入される生ごみに付着しているバイオ（微生物）を利用するため、そのバイオ（微生物）を活発化、繁殖させる期間が必要です
生ごみの投入は「ペットに餌を与えている」とお考えいただき、無理をせず適度な投入をお願いします

●生ごみの投入のしかた

●毎日約300～700gの生ごみを入れる
（三角コーナー約半分程度）

- 投入量が多いとバイオ（微生物）が消化不良になり、分解不良となります
- 投入量が少なすぎると、水分、栄養分が不足しバイオ（微生物）の繁殖が遅くなります

●でんぷん質(ごはん、うどん)ばかり入れない



- でんぷん質ばかりを入れているとバイオ（微生物）が消化不良になり、分解不良となります
- できるだけ色々な生ごみを投入することをおすすめします

守らないと

**バイオ（微生物）の活発化、繁殖が遅れ、
においが強くなったり、充分に生ごみの分解ができません**

●バイオ（微生物）の状態の見分け方

**バイオ（微生物）の状態は、付属のpH試験紙を用いて確認することができます
（pH試験紙は付属の「上手な使い方シート」に添付してあります）
使いはじめ期間の最後に（7～10日程度）確認してください**

pH試験紙が赤色（アルカリ性）の場合 ⇨ **バイオ（微生物）が良好に繁殖しています
そのままお使いください**

pH試験紙が黄色（酸性）の場合 ⇨ **バイオ（微生物）が消化不良となっています**

pH安定剤（別売品）を1袋使用する（☞4ページ）

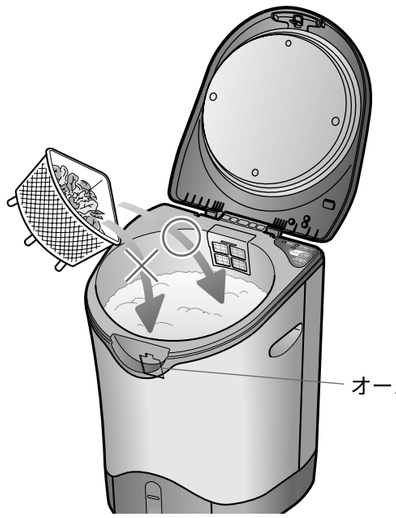
日常の使いかた

1 ふたを開ける

- 本体内から水蒸気が発生したり、ふたに水滴が(冬場は特に)付着することがありますが、異常ではありません
  定期的に水滴をふきとってください

2 生ごみを入れる

上手に生ごみを投入しましょう(☞8、9ページ)



- 処理槽の奥に生ごみを入れてください
  (手前に入れると処理前の生ごみがオーバーフロー窓から落下する場合があります)
- 投入口の周囲や本体の表面が少し熱く感じることがありますが、異常ではありません
  (バイオチップ中の微生物の活動を活発にするために加温しています)

お願い

貝殻などの固いゴミは絶対に投入しないでください
(処理槽のけずれや故障の原因になります)

3 ふたを閉める

- カチッと音がするまで確実に閉める
- 一定時間自動的に撹拌します
  (ふたを閉じたとき、約2分間撹拌、その後は一定時間ごとに約30秒間撹拌します)
- 頻繁にふたの開閉をしないでください
  (モーターの保護装置が働き、一時的に撹拌しなくなります)

こんなときは？

バイオチップの状態が悪くなったとき

処理槽内に異物・未分解物が目立つとき

ミキシングフィンによって、乾燥した未分解物が表面に浮き上がってくる場合があります
処理槽内に大きな異物、未分解物が多いと、処理物がオーバーフロー窓からうまく落下できず、充分に生ごみの分解ができなかったり、においの原因になります

- 処理槽内の大きな異物・未分解物を取り除いてください
- 必ず電源プラグを抜いてから、手袋をして作業してください
  (ミキシングフィンでケガをするおそれがあります)

カラカラの乾燥状態になっているとき

投入量が少ない場合、生ごみからの水分供給がほとんどないため、バイオチップが乾燥して微生物の活動が低下します
このため、においが発生したり、乾燥した未分解物が目立ってきます
微生物が活動できるように水分調整することにより、正常な分解状態に回復します

- まず、処理槽内の異物・未分解物を取り除いてください
- 水を約500mL程度均一にバイオチップに散水してください(フィルターにはかけないでください)
- 散水後、生ごみの投入を少なめ(700g/日程度)にして数日間投入を継続することをおすすめします

べたついたり、だんご状になっているとき

投入量が多い場合、バイオチップがべたつき、分解に必要な空気が得られず微生物の活動が低下します
このため、においが発生したり、バイオチップが固まり、うまく撹拌できなくなる場合があります

- 生ごみの投入を2～3日控えてください
- だんご状のものが目立つ場合やべたつきがひどい場合は、乾燥する前にスコップなどでほぐしてください
- だんご状のものが固くてほぐせない場合は、取り除いてください
  その際にバイオチップの量が減少した場合は、別売の入れ替え用バイオチップ(☞4ページ)を補充してください(補充量は、ミキシングフィンが隠れる程度が目安です)

長期間使用しないとき

1ヵ月以内の期間使用しない場合

- 電源は切らないでください
  電源を切ると、生ごみの分解能力が低下し、においの原因になります
  3～6日間使用しないと、それ以後自動的に最少限の維持運転に切り替わります
- 使用を再開する場合、水を約500mL程度均一にバイオチップに散水して、生ごみの投入を少なめ(700g/日程度)にして、数日間投入を継続することをおすすめします

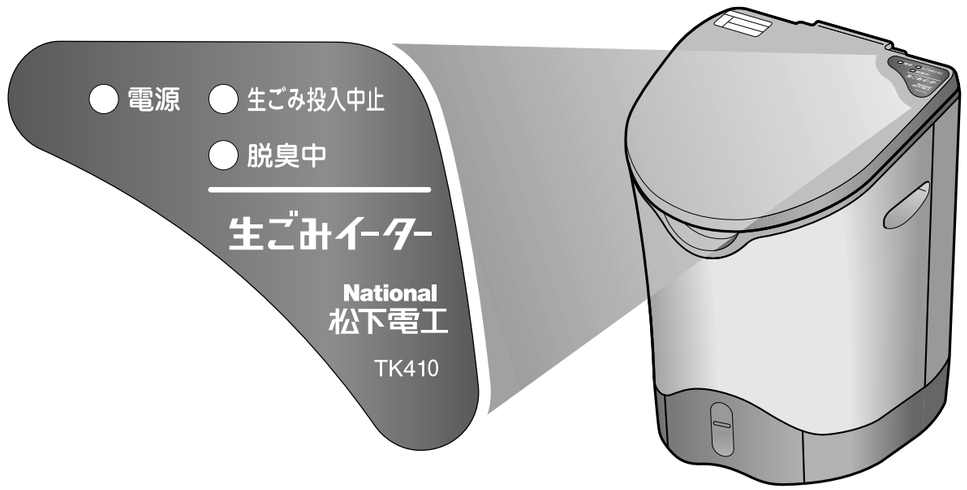
1ヵ月以上の期間使用しない場合

- 必ず電源プラグを抜き、中身(バイオチップ、脱臭バイオボールなど)を取り出してください
  (取り出しかたは☞22ページ)
- 使用を再開する場合、バイオチップ、脱臭バイオボールを新しいものに交換してください
  (準備のしかたは☞7ページ)

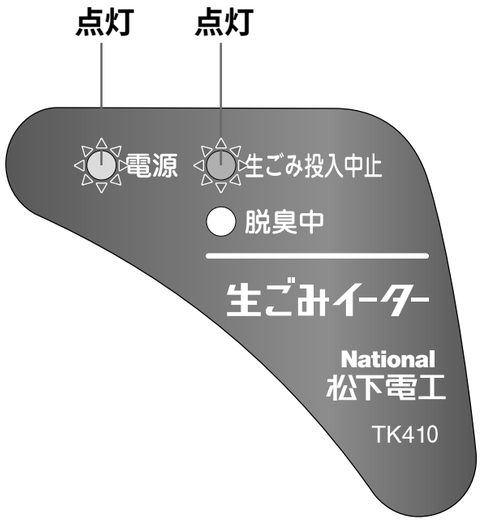
表示パネルのランプが点灯・点滅したら

点灯・点滅した場合、各部分の点検・保守を行ってください

通常運転中(ふたが閉められた状態)にバイオチップの状態、本体の運転状態に変化があれば表示ランプが点灯・点滅してお知らせします



生ごみ投入中止ランプが点灯した場合

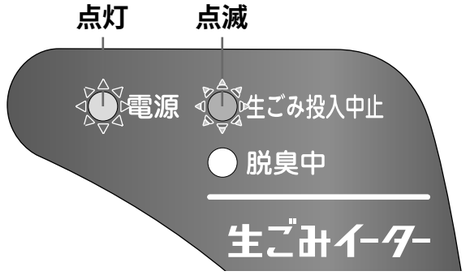


バイオチップがべたついている
生ごみの入れすぎです
そのまま入れつづけると、においの原因になります

目安として2～3日、生ごみの投入を中止してください
ランプが消灯したら、投入を再開してください

お願い
生ごみ投入中止ランプは目安のランプです
生ごみ投入時に、バイオチップの状態を確認してください
（付属の『上手な使い方シート』をご参照ください）

生ごみ投入中止ランプが点滅した場合



電源プラグを抜いて約1時間放置してから、次の処置を行ってください

バイオチップがカラカラに乾燥している

水約500mLをじょうろなどで処理槽内のバイオチップに均一に散水し、電源プラグを差し込んでください
(☞12ページ)
（フィルターに水がかからないように注意してください）

バイオチップがだんご状に固まっている

小さいスコップなどでだんご状に固まっているバイオチップをほぐし、電源プラグを差し込んでください
(☞12ページ)

直らない場合は

ミキシングフィンに異物がひっかかっている

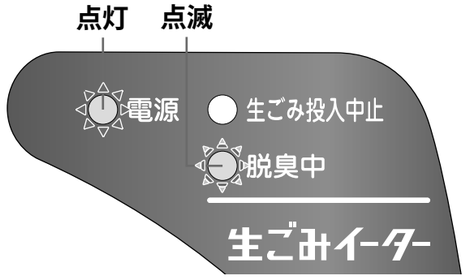
バイオチップを全量取り出し、異物を取り除いてから、電源プラグを差し込んでください
(☞12、22ページ)

水分センサーにバイオチップが付着している

バイオチップを全量取り出し、付着したバイオチップを割りばしなどを利用して取り除いてください
(☞22ページ)

●上記の処置をしても直らない場合は、販売店に点検を依頼してください（電源プラグは安全のため抜いてください）

脱臭ランプが点滅した場合

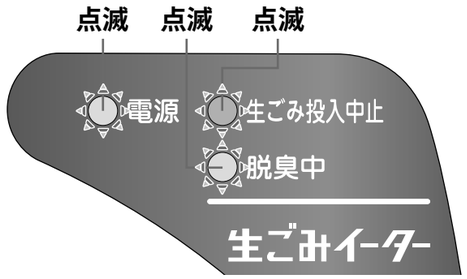


フィルターが目づまりしている
または吸込口・排気口がふさがれている
電源プラグを抜いて次の処置を行ってください

フィルターの掃除または吸込口・排気口の点検をして電源プラグを差し込んでください
設置場所を再度確認してください
(☞6、22ページ)

●上記の処置をしても直らない場合は、販売店に点検を依頼してください（電源プラグは安全のため抜いてください）

表示ランプ全てが点滅した場合



●販売店に点検を依頼してください
(電源プラグは安全のため抜いてください)

表示パネルのランプが点灯・点滅したら

においが気になるときは（脱臭運転の使いかた）

においが気になる場合は、事前に付属のpH試験紙を用いてバイオチップのpHを測定してください
（pH試験紙は付属の「上手な使い方シート」に添付してあります）

pH試験紙が赤色（アルカリ性）の場合

- 全般的にたんぱく質(魚介類のアラなど)の生ごみを多く投入したとき

投入を控えて、脱臭運転を使用する

脱臭運転をしてもにおいが気になる場合は

バイオチップ分解促進剤(別売品)を1袋使用する (☞ 4ページ)

pH試験紙が黄色（酸性）の場合

- 全般的にでんぷん質(ごはん･うどんなど)の生ごみを多く投入したとき
- 水分の多い生ごみを入れすぎてバイオチップがべたついているとき

pH安定剤(別売品)を1袋使用する (☞ 4ページ)

- 上記の作業をしてもにおいが気になる場合は、バイオチップ及び脱臭バイオボールを全量新しいものに交換してください (☞ 22ページ)

脱臭運転の使いかた

- 使い始めに一時的に特有なにおいがすることがありますが、異常ではありません
- 脱臭運転中の熱によって、排気された水分が蒸発する音がする（特に冬場にふたを閉めた後に）場合がありますが、異常ではありません

1 ふたを開ける

2 脱臭ボタンを押す

- 脱臭ランプ（緑）が点灯します

3 ふたを閉める

- カチッと音がするまで確実に閉める

脱臭運転を終了するとき

脱臭運転中に中止したいときは、脱臭ボタンを押してください
脱臭運転は終了し、脱臭ランプが消灯します

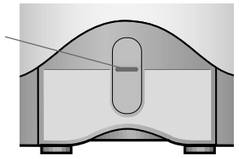
- **但し、脱臭ボタンを押さなくても48時間経過すると自動的に終了し、脱臭ランプが消灯します**
- 脱臭運転をしても、生ごみの種類や量、分解状態によってはにおいがでることがあります
- 脱臭運転中は水分の除去能力が通常より低下します。投入量が多くバイオチップがべたついている場合は、投入を控えて、必要なときだけ使用してください

コンポスト（処理物）がたまったら

トレー窓の目盛までたまる前に必ず取り出してください

取り出さないとオーバーフローダクトが詰まり処理槽内のチップ量が増えて処理能力が低下するおそれがありますので、早めの取り出しをお願いします

初回の取り出し時期の目安：約1ヵ月～3ヵ月後
2回目以降の取り出し時期の目安：約1週間～3週間ごと

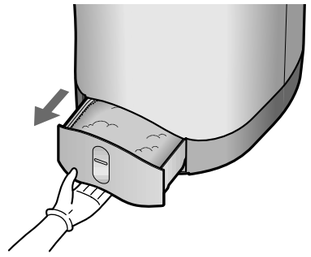


- **コンポスト(処理物)の取り出し時期は生ごみの種類、量によって異なります**

〔生ごみの種類〕
- **野菜や果物の皮などは繊維質が多く、コンポストがたまりやすくなります**
- **肉、魚などは分解されやすく炭酸ガスや水などに分解されてしまうのでコンポストがたまりにくくなります**

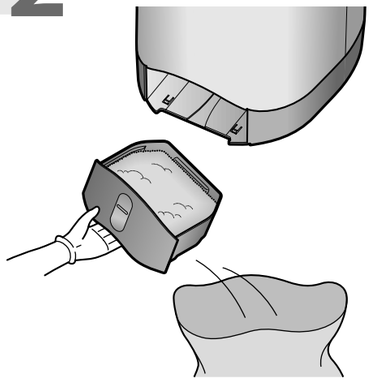
〔生ごみの量〕
- **一般的に量が多いほど、コンポストがたまりやすくなります**

1 トレーを引き出す



ご注意	●トレーのコンポスト（処理物）があふれるとオーバーフローダクトのつまりの原因になります 必ず定期的に取り出してください

2 コンポスト(処理物)をポリ袋に取り出す



- コンポスト(処理物)に触れたときは必ず手を洗ってください(土や堆肥と同じです)

●ポリ袋・手袋・小さいスコップを用意してください
●コンポスト(処理物)を取り出すときは手袋を着用してください

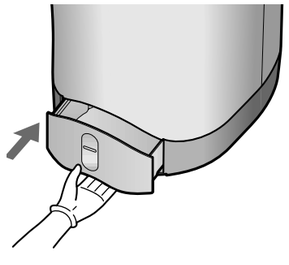
コンポスト(処理物)がトレーにたまっていないが、堆肥として利用する場合

- 処理槽内の上側からスコップなどで取ってご使用ください

※取り過ぎに注意してください
(トレーの半分程度（約1L）が目安です)

- 最初の3ヵ月間は堆肥としての効果が得られにくいので使用しないでください

3 トレーを本体にはめる



- トレーを奥まで確実にセットしてください

ご注意	●トレーを本体にセットするとき、トレー窓を指で押さえないでください 破損の原因となります

コンポスト（処理物）の処置方法

1 可燃ごみとして処分する

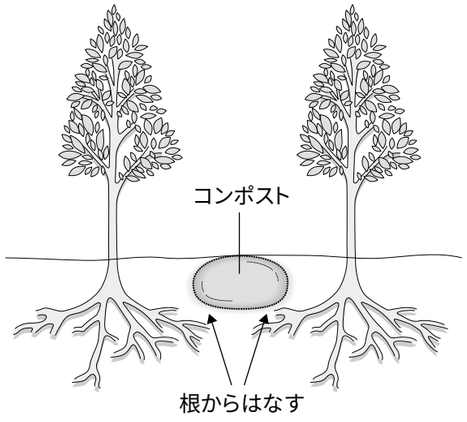
●市町村で定められた方法で処分してください

2 堆肥として使用する（トレーにたまったコンポストは未熟な堆肥の状態です）

未熟な堆肥を使用すると、有機物が微生物に分解されるときチッ素が消費されますすると、一時的に土の中が、チッ素不足となり植物に悪影響を及ぼすことがありますので、植物の根の付近に未熟な堆肥を使用しないでください

使用方法1 庭や畑で園芸をされる方

●コンポストをそのまま埋め、堆肥として使用する場合



①植物の周囲にあまり近づけないように適量埋めてください

※植物の近くに埋めると、堆肥化をすすめる微生物が植物の生育に影響を及ぼす場合があります

※だんご状の固まりがある場合はほぐしてから埋めてください

②あとは通常通り水をやってください

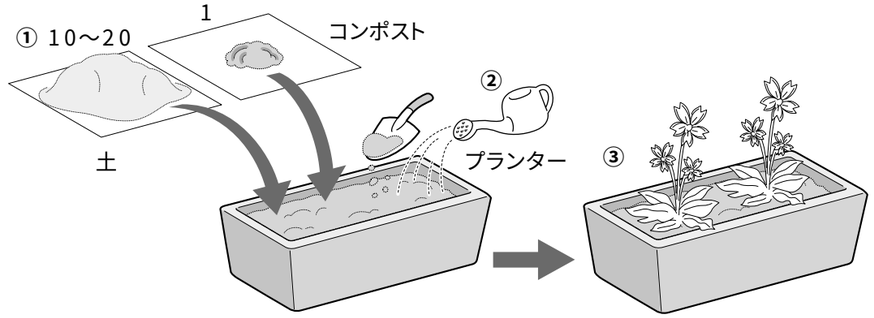
●完熟肥料の見分け方

●生ごみの原形がなくボロボロになり色が黒褐色で土のにおいがする(いやなにおいがしません)

使用方法2 ベランダで園芸をされる方（完熟肥料にする必要があります）

●プランターを使用する場合

※ビニールシートや新聞紙を敷いて作業すると周囲を汚しません



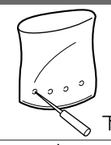
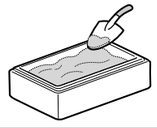
①コンポストと土を1:10～20の割合でよく混ぜ合わせ、約1ヵ月間放置する

②時々散水してよく混ぜてください

③苗を植える

※日陰で風通しの良い雨水のかからないところに置いてください

●プランターを使用しない場合

	ビニール袋	発泡スチロール
①容器の底に穴をあける	 下側に2cm間隔	ドライバーなどで穴をあける
②土とコンポストを入れよく混ぜる	土(10～20):コンポスト(1)	
③次に湿らす程度にじょうろで散水する		
④フタを閉めて日陰で保管する(1ヵ月)		
	●日陰か軒下などで熟成される	●途中、時々土をよく混ぜて散水すると、熟成が早くなる

コンポスト（処理物）の処置方法

性能維持のために（脱臭バイオボールの追加方法）

性能維持のため必ず3ヵ月ごとに脱臭バイオボールを追加してください
（脱臭バイオボールを追加しないと、においが強くなったり充分な生ごみの分解ができません）

3ヵ月ごとの脱臭バイオボールの追加はあくまでも目安です
使用条件、生ごみの種類、量によって次のように変化した場合は3ヵ月経過しなくても脱臭バイオボールを追加してください

- バイオチップがひんぱんに、だんご状の固まりになる
- 分解されにくい生ごみが目立つようになる
- においが強くなる

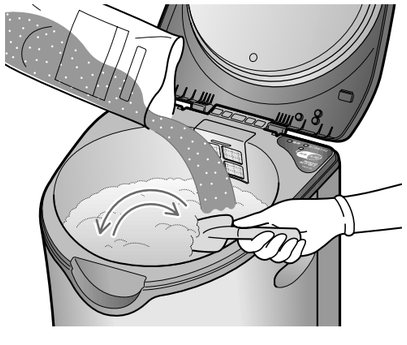
お願い

- 脱臭バイオボールは必ず専用のものをお使いください （☞ 4ページ）
- 追加用脱臭バイオボールは子供の手が届かない場所・直射日光の当たらない場所に保管してください

1 ふたを開ける

- 処理槽内の目立った異物・未分解物を取り除いてください。

2 脱臭バイオボールを入れる



- 処理槽の奥に脱臭バイオボールが入るように全量(1袋)入れる
  （手前に入れると脱臭バイオボールがオーバーフロー窓から落下する場合があります）
- 小さいスコップでできるだけ混ぜることをおすすめします

3 追加目安シールを貼る

- 脱臭バイオボールの追加日を付属の追加目安シールに記入し、ふたの裏面に貼る

4 ふたを閉める

- カチッと音がするまで確実に閉める
- 運転を再開します

性能維持のために

お手入れのしかた

本体及び処理槽内は絶対に水洗いしないでください
（感電・漏電火災や故障の原因となります）

⚠警告

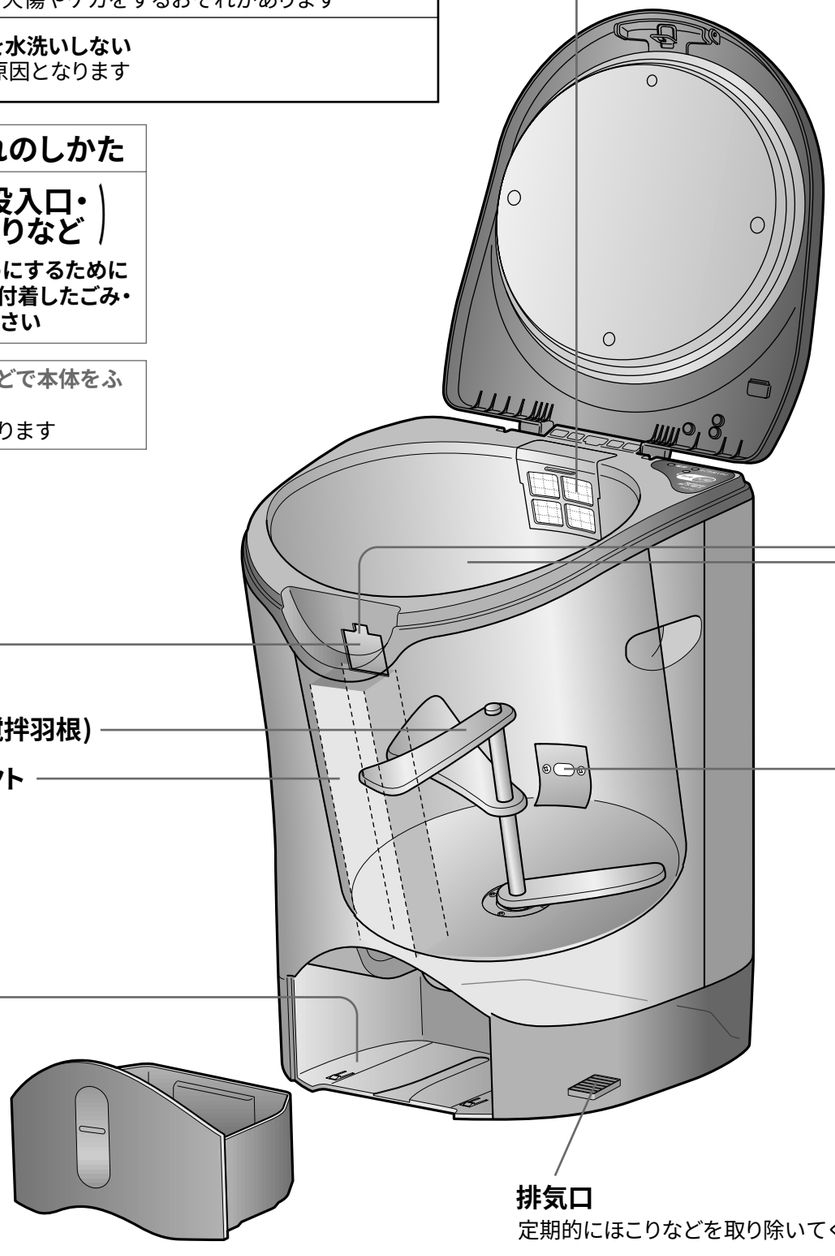
- **通電中及び電源プラグを抜いてから1時間以内はバイオチップや処理槽の内部に顔や手などを入れない**
  熱をもっているため火傷やケガをするおそれがあります
- **本体及び処理槽内を水洗いしない**
  感電や漏電火災の原因となります

本体のお手入れのしかた

外装・ふた・投入口・トレーのまわりなど

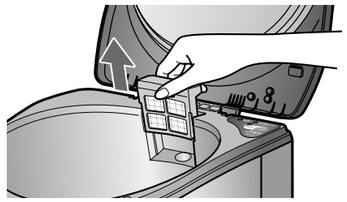
虫が寄りつかないようにするためにうすめた中性洗剤で、付着したごみ・汚れをふきとってください

ベンジン・シンナーなどで本体をふかないでください
変形・変色の原因となります



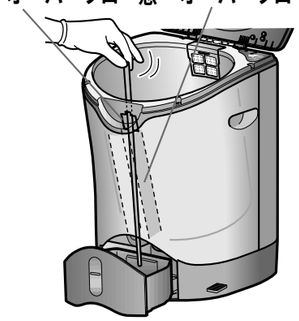
定期的にほこりなどを取り除いてください

フィルターのお手入れのしかた(目安は月1回程度)

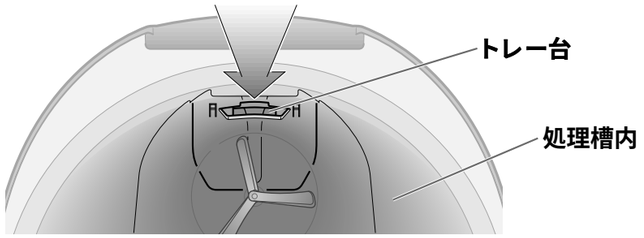


- フィルターを取り出し、掃除機でホコリを取り除くか水洗いを行ってください
  水洗いをされた場合は乾いてからセットしてください
- フィルターは必ずセットしてください
  本体内部へホコリ、異物が入り、火災・故障の原因となります

処理槽内のお手入れのしかた

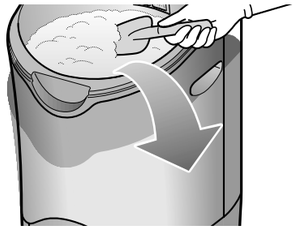


- オーバーフローダクト・オーバーフロー窓に生ごみのカスなどがつまっている場合は、細く長い棒(料理ばし)などを使用して取り除いてください
  (トレーをはずしてトレー台が見えることを確認願います)



まずはじめに電源プラグを抜き、1時間以上待ってください

バイオチップの取り出しかた



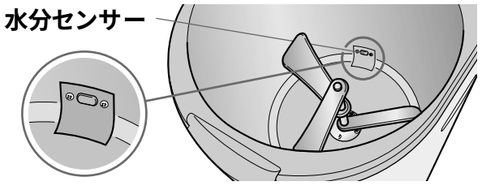
- 投入口から手袋をして小さいスコップを使用して取り出してください
- 取り出したバイオチップ・脱臭バイオボールは可燃ごみとして処分してください
- 再使用時は、新しいバイオチップ・脱臭バイオボールをお買い求めの上（☞4ページ）、7～10ページの要領で使い始めてください

バイオチップの交換が必要な場合

日常の正しい生ごみの投入のしかたを守ってバイオのパワーが充分に発揮できる環境を保てば、基本的にバイオチップの交換は必要ありませんが、次の場合は良好な分解を保つために、全量交換をおすすめします

- 1ヵ月以上ご使用にならないとき(引っ越し、長期不在のとき)
- 生ごみや水の入れすぎなどでバイオチップが大きな固まりになり、くずすことができないとき
- 別売のpH安定剤、バイオチップ分解促進剤を使用してもにおいが強いままのとき

水分センサーのお手入れのしかた

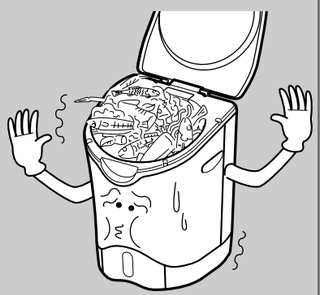


- 水分センサー(処理槽内の金属凸部)にチップが付着している場合は割りばしなどを利用して取り除いてください

手袋をして作業してください（ミキシングフィンでケガをするおそれがあります）
水分センサーを傷つけないようにご注意ください

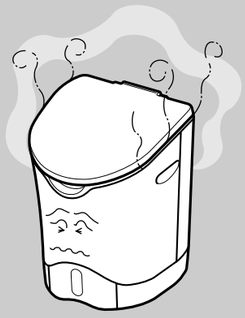
お手入れのしかた

故障かな？と思ったとき

このようなとき	チェックしてください	直しかた
表示ランプが点灯・点滅する	どのランプが点灯・点滅していますか	P13、14の処置を行ってください
電源ランプが点灯しない	電源プラグがコンセントから抜けていませんか	電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください
異常な音がする	内部に異物がからまっていませんか	電源プラグを抜いてから安全を確認して異物を取り除いてください (☞12ページ)
	本体設置が正しくされていますか	本体を水平に設置し直してください (☞6ページ)
撹拌しない (ミキシングフィンが動かない)	ふたが開いていませんか	ふたを閉めてください (ふたを閉じたとき約2分間撹拌、その後は一定時間ごとに約30秒間撹拌します)
生ごみが分解されずに多量に残っている 	ふたが開いていませんか	ふたを閉めてください (ふたが閉まると自動的に動く構造です)
	バイオチップ・脱臭バイオボールがカラカラの乾燥状態になっていませんか	水を約500mL程度均一に散水してください
	生ごみの投入量が多すぎませんかまたは水切りが不十分ではありませんか	生ごみの投入を2～3日やめてください

このようなとき	チェックしてください	直しかた
ふたを開けたら本体から水蒸気が出た	外気温が下がる冬期は特に本体内部温度と外気温との温度差があるためです	異常ではありません
トレーに水が入る (下から水がもれる)	トレーが本体から外れていませんか (本体ケースに当たった雨水がつたわって入る場合があります)	トレーを奥まで確実にセットしてください
チップがべたついている、またはだんご状になっている	水分の多い生ごみを多量に投入していませんか	チップがべたついている場合は2～3日間生ごみの投入を控えてください
		だんご状の固まりを小さなスコップなどでほぐしてください
虫が処理槽内に発生している	表示ランプに異常はありませんか	P13、14の処置を行ってください
	生ごみの投入量が多すぎませんかまたは水切りが不充分でありませんか	生ごみの投入を2～3日やめてください 気になるようでしたら、市販の殺虫剤を本体周辺に噴霧してください。
トレーにコンポスト(処理物)が落ちてない	オーバーフローダクト・オーバーフロー窓がつまっていませんか	つまっているコンポスト(処理物)を取り除いてください (☞22ページ)
ふたが閉まらない	処理槽内に大きな生ごみの未分解物が残っていませんか	電源プラグを抜いてから安全を確認して異物を取り除いてください(☞12ページ)

故障かな？と思ったとき

このようなとき	チェックしてください	直しかた
ふたを閉めた状態で普段より強いにおいがする 	電源プラグがコンセントから抜けていませんか	電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください
	ふたやトレーがきっちり閉まっていますか	ふたやトレーをきっちり閉めてください
	異物のかみこみで撹拌ができなくなっていませんか	電源プラグを抜いてから安全を確認して異物を取り除いてください(☞12ページ)
	生ごみの投入量が多すぎませんか	脱臭運転をしてください ※生ごみの投入を2～3日やめてください (☞15ページ)
	水分の多いごみや水切り不足でバイオチップがべたついていませんか	
	においの強い生ごみを投入しませんでしたか	脱臭運転をしてください (☞15ページ)
	バイオチップ・脱臭バイオボールがカラカラに乾燥しているため水を加えませんでしたか	
	分解できないものが残っていませんか	電源プラグを抜いてから安全を確認して異物を取り除いてください(☞12ページ)
	でんぷん質(ごはん・うどん)の割合が多くありませんか	しばらくでんぷん質の投入を中止してください
	バイオチップ・脱臭バイオボールが減っていませんか	脱臭バイオボールを追加してください(☞19ページ)
	脱臭バイオボールの追加時期(3ヵ月に1回)が過ぎていませんか	脱臭バイオボールを追加してください(☞19ページ)

※上記の処理を行っても、多量の生ごみが残ったり、においが強いままなどの場合は、バイオチップ分解促進剤またはpH安定剤をご使用ください(☞15ページ)
なおにおいが気になる場合は、バイオチップ及び脱臭バイオボールを全量を新しいものに交換してください(☞22ページ)

23ページから25ページの点検でなお異常がある場合は

破損した	お願い	※このような場合、事故防止のため必ず販売店に点検・修理を依頼してください

定格・仕様

品番		TK410
脱臭機能		有り
適用		一般家庭用屋外設置
使用地域		一般地、寒冷地兼用
電源 消費電力		AC 100V 50／60Hz 最大330W
電源コード長さ		約2m
標準処理能力		1日1.0kg（最大1.5kg/7日に一度）
外形寸法		高さ54×幅35×奥行45（cm）
質量（重量）		本体約8.5kg
運転		ふたを閉じてから5秒後に約2分間撹拌、 その後は一定時間ごとに約30秒撹拌
撹拌装置	回転数	4回転／分
	回転方向	正転のみ
	保護装置	ふた開時自動停止
加熱部保護装置		温度ヒューズ

愛情点検

半年に1回次のようなことを点検してください。

長年ご使用の電気器具の点検を!!

- ●電源コードを動かしたときに電気が入ったり、切れたりしませんか。
- ●本体・プラグ・電源コードがさわれないほど熱くなっていませんか。
- ●電源コードにキズはありませんか。
- ●異常なにおい（焦げるような）や音が出ていませんか。
- ●触ると電気（ビリビリ）を感じることはありませんか。
- ●プラグ刃のガタツキがありませんか。

※点検時にはプラグの汚れをおとしてください。
※異常があれば故障や事故防止のため販売店にご相談ください。